

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	令和6年度 第3回郷育推進会議	
開催日時	令和6年9月30日（月）18:30～20:00	
開催場所	市役所別館1階 大ホール	
委員名	（1）出席委員 伊藤副会長、木本会長、東委員、柳田委員、山口委員、宇都宮委員、井上委員、濱田遼委員 （2）欠席委員 原尻委員、濱田真委員	
所管課職員職氏名	郷育推進課長 芹野 文彦 郷育推進課郷育係長 坂本 剛章 郷育推進課スポーツ文化振興係 岩野 修人	
会 議	議 題（内容）	○社会教育と地域活動の連携について～キッカケラボとの交流～
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	2人
	資料の名称	○社会教育委員として、何をすべきか ○福津市未来共創センター ○キッカケラボ利用登録団体一覧
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	記録内容の確認方法：会長による確認	
その他の必要事項	福津市未来共創センターキッカケラボのコネクター2名及び地域コミュニティ課市民共働推進係長井上真智子も出席	

## 審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

### 1. 開会のことば

### 2. 協議事項

#### ●会長

今年度は、以前から話していたように郷育推進会議という社会教育委員の会議として、福津市の繋ぐ役割を担う地域コミュニティ課の「キッカケラボ」とどのように連携をとっていくことができるか、1年かけて取り組みたい。前は「キッカケラボ」の方々に来ていただくつもりだったが会議日程が重なったため、私が知っている範囲で話をし、JCOMの動画でキッカケラボの活動の様子を見た。今日は一緒に色々なことを共有し、ワークショップとまではいかないにしても顔を合わせて話し合いたいと思い、キッカケラボの方々を招いた。

今日の会議の流れとして全体を大きく三つに分けると、まず、社会教育委員として何をすべきか、社会教育委員の立場を再確認いただく話をする。その後、キッカケラボの目指すもの、目的などについて話していただき、最後は、郷育推進委員とキッカケラボの方でワークショップのような形式で自己紹介や今日の感想を話していただきたい。

まず、社会教育委員について、最初に「郷育推進会議」という名称は全国で福津市にしかない特有の名称であり、一般的な社会教育委員との役割を兼ねているので、私達は、社会教育委員対象の研修等に参加している。

社会教育委員として、大きく三つのことを確認したい。私達は社会教育委員会のメンバーではない。この会は社会教育委員会ではなく、私達は「独任制」で1人1人が社会教育委員として任命された一個人で、任命された私たちが集まる社会教育委員（郷育推進会議の委員）の会議。いわゆる民間で言えば個人事業主のような立場で、その人たちが集まって社会教育委員の会をやっている。そういう意味では、委員の多くが学校教育・家庭教育、そして社会教育の関係者や学識経験者、そして福津市は公募の方も含み社会教育に関心のある方という意味で、社会教育委員の役割を担える立場になれる方々であり、社会教育という大きな枠組みで、難しいところもあるが1人1人が社会教育委員という気持ちで来ていただいている。

仕事は大きく分けて三つあり、社会教育に関する計画の立案、教育委員会からの諮問に対する答申、これは決定権があるわけではないが、行政は必ず答申書を勘案して次の計画を立ててくれる。そして、そのための調査研究が三つめで、今私達がしているキッカケラボとどのように連携していくかとか、行政の中で教育分野に限らず繋がるための取り組みをどのようにするといいかなどを探るといことは調査研究に当たると思う。そしてもう一つ、社会教育委員の大事な役割としては、教育委員会とか、もしくは委嘱を受けた場合は青少年教育団体などへの指導や助言をすることができる。そういう意味で、委員会にただ入ってきたメンバーではなく、1人1人がそれだけの立場を持っていてその立場で動いているという認識で社会教育委員（郷育推

進会議の委員)を捉えていただきたい。今話したことを裏づけるのは、皆さんはそもそも社会教育活動をしている方々であることと思う。

福津市は郷育推進会議で社会教育の新しい活動として何をしているか、何を始めたかと聞かれることがあるが、何か新しいものを始めるためではなく、既に福津市にあるものをしっかり生かすことが重要で、何かを作り上げなければいけないわけではない。それがまず前提としてある。私自身、郷育推進会議の委員や色々な団体に所属して社会教育活動をしているので、それを示して何か繋がるものがあればと探ることが社会教育委員の会(郷育推進会議)として可能になると言える。

新たな活動を始めることは義務ではなく、今ある活動を繋ぐことが重要なので、郷育推進会議の委員は任期が2年だが、メンバーが変わった時はまずお互いの活動について知るための勉強会をしている。例えば、婦人会として委員になっても他の活動にどんなものがあるかよく知らないのに何か意見を出すように言われても難しい。お互いがどういう活動をしているかを知ること、いろいろと繋ぐことができる。そういう意味でも、各地区の活動の洗い出し、各地区や個人個人、その仕組みを把握し、例えば、教育委員会の中に郷育推進課があり公民館やどんな組織があるという、全体の組織図のようなものがあって、自分の自治体ではどこに何があって繋がりやすいとか繋がりにくいということについて市民はあまりご存知ないと思う。私達は、郷づくり活動はあるが実はここになかなか連絡がいてない、繋がってないなどの現状を知らないと解決策も見いだせない、活動の洗い出しと仕組みの把握の中で、市役所の組織図とか担当業務、公共施設の機能と活動状況を確認したり、学校教育社会教育の現状を整理したり、地域コミュニティの特徴と活動を把握したりできるといいと思う。その上で、例えば福津市の強み、弱みや特徴を考えたい。キッカケラボは、福津市の特徴であり強みである。他の自治体では、どこに何を聞いていいのかがわからないが、福津市はキッカケラボがあるのでうらやましいと言われることが多い。このような強みや特性を使い、福津市の特徴に合わせた活動に重点を置く。そして繋ぐ仕組みを話し合っ、それを継続させるために中間見直しもしていきたいと思う。

例えば、福津市は人口が増加して児童生徒も増加している。これは良い悪いではなくて特徴・特性。一方で高齢化地域が増えている。海が近いので海を中心とした観光資源があり、食があるが、企業が少ないので、法人税が入らず市の財政は非常に厳しい。隣の古賀市や新宮町はなぜ単独で色々実施できるかというと、法人税が入って財政面がすごく強いためであり、福津市はそれが弱い、その代わりに教育に力を入れているという話は前々から聞く。これは私の感想だが、福津市は行政職員と情報を共有する機会を比較的多く設けていると感じる。郷育カレッジのような生涯学習のカリキュラムは全国から視察で来るので強みではないかと思う。そしてキッカケラボ。このような情報を共有して全体を包括して助言するのが郷育推進会議なので、今後も繋げることを意識してやっていきたい。まず自分を知り、自分たちを知る、そしてそこからいろいろな可能性を考えていけるといいと思う。

事例の一つを紹介すると、福津市の特徴は海があり松林が続いていることだが、15年前松林は荒れ放題で近隣住民も恐れていた。なぜ松林を綺麗にで

きなかったかという、地域によって所有者が違うため繋がりがなかったからである。

逆にこれは学びになるが、松林について研究して新宮から津屋崎の方まで情報共有や勉強をされているグループがある。古賀や新宮は行政が連携して松林は綺麗で、花見の古賀市との境界線では、こちらは綺麗でこちらは荒れているという様子で一時期ひどかった。研究をしている方が、福津市をどうにかしたいと中学校に働きかけ、民間の事業にも手を挙げ、そしてたまたま個人的に知り合いだった私にも連絡があり、私は郷育カレッジに関わっていたので郷育カレッジ10周年の時にイベントを行い中学生に来てもらった。市内3中学校それぞれで、松林についてどうしたらいいかワークショップで意見を聞くと、津屋崎中はキャラクター、福間中は巣箱を作ったらいいのではないか、などといくつも提案が出た。ただ、巣箱を作ってもその下が荒れていると巣箱の管理ができないということで、中学生が声をかけ、地域の郷づくりと連携が始まり、松林清掃が本格的に始まった。郷づくりの課題は、松林の手入れはしたいけど高齢化で重たい松葉などを運ぶのが大変なことで、中学生はその松林に足を踏み入れたことがない子もいたが中学校に手伝いを依頼したところ学校側が引き受けてくれたので、中学生が来てくれた。中学生がとても頑張ってくれたが、単に「来てほしい」では中学生も動かない。どんな効果があるか大人に説明されてやるのではなく、自分達が考え巣箱を作るという提案をしたからこそ、そのために頑張ろうという良い循環になった。ただ作業をするのではなく、何かをする時そこに「学び」をプラスすると、意味や価値が出て継続する。この時は郷育カレッジがある意味その繋ぐ役目を担ったと思う。この清掃活動は、たまたま人の繋がりがあって始まり、今も続いている良い例だが、そういう知り合いが居ないことで、途中で全部頓挫してしまう取り組みもあると思う。そのためキッカケラボのような繋ぐ場所と、私達が手を繋ぐことで何かできるのではないか。今はまだ何ができるかの前の、一つ世界が広がるというスタートである。特にキッカケラボは、行政では簡単に手を出し難い民間企業との繋がりを持っているので、やり方は考えないといけないが、まずは私達が社会教育委員として、繋がり大切さを自覚した上でキッカケラボと繋がることで、新たな心の繋がりも出てくるのではないかと思う。

今からやろうとしていることを説明すると、私達は独任制で社会教育委員として任命され、教育委員会に助言する仕事や役割を持っている。市民の方は簡単に助言できるわけではなく、社会教育委員だからできるので、教育の分野を、私達は必ず大事にしなければならない。柱になる役割をどこまでも広げていい話ではないということも認識いただきたい。なお伊藤先生と打ち合わせをした上で、このお話をさせてもらっている。キッカケラボの方々にとって改めて教育委員会の部署との連携という意味合いと、私達が社会教育委員、郷育推進会議の委員としての役割、立場についての説明をした。次はキッカケラボについて話していただきたいと思う。

#### ●キッカケラボ

令和4年の7月にキッカケラボがオープンして2年になる。市内の市民活動をしている方のところへ情報を聞きに伺ったりしているが、まだまだ情報

を集める力は弱く、いろんな方と連携させていただきたいと思う中で今回良い機会をいただいた。大きく言うとキッカケラボは市民活動をされている方を支援するセンターだが、福津市独自の取り組みもしているので、地域コミュニティ課の市民共働推進係の職員だけではキッカケラボの窓口体制を十分に担えず、市民活動の支援に長けている方と市民活動を長くしている市民の方と一緒に三層体制で運営している。

福津市未来共創センターキッカケラボは、市の公共施設。場所は、中央公民館の1階に昔の図書室の場所を改装して令和4年にオープンし、今構築中で、今から説明する内容は目指しているものも含めているので、出来上がったものとは捉えず今一生懸命作っているものとして聞いてほしい。

センター事業で目指しているものと、センターが取り組んでいることを話す。後半はJ:COMのYTRを見ていただいているので軽くお話しする。

まず、福津市未来共創センターという名前に私達の在りたい姿への思いを込めており、福津市を舞台に多様な方たちが関わり合って持続可能なまち作りを進める拠点になりたいということで、取り組みを進めているSDGsの持続可能なまちづくりという考えを福津市に取り入れたことがきっかけでこのセンターの種が生まれた。目指している先は、SDGsが掲げている理念の「誰一人取り残されないまちづくり」を福津市版で言うと「福津に関わる全ての人を取り残されないまちづくり」、言い換えると「福津に関わる全ての人が、Well-beingに」である。皆さんが身体的にも社会的にも経済的にも良い状態になっていくことを、市民活動を通じて成し遂げるのが目標である。「まちづくり基本構想」という市の最上位の計画があり、2030年に「人も自然も未来につながるまち、福津。」を目標に、社会・環境・経済の三つの分野に分けてまちづくりを進めている。その中の社会という側面の「地域を担う人財育成」に何か役立てるためにセンターを置いている。社会教育の皆さんと教育分野の皆さんも同じ枠で活動していただいていると思う。その中でもキッカケラボは、まちの大きな課題である担い手不足という点を意識しながら取り組みを進めている。

2008年から人口が23%伸びているが、生産年齢人口と言われる15歳から65歳の人口の実数値が伸びていない。その割合は、2008年には65%だったが、今55%まで落ち、動き手が絶対的に不足している。地域コミュニティや市民活動、農業も含めていろんな分野で担い手が足りていない大きな課題をまち（福津市）が抱えているので、キッカケラボはまちの担い手、SDGsの視点で言うとまちの創り手が不足しているという状態を、どれだけ改善できるかということが、求められている大きな役割。

キッカケラボに市民の方が何かしたいと来られた時に、私達が積極的に心がけているのは、この二つの視点の組み合わせで、活動したい方のやりたいことと、まちにいいことを組み合わせ、何か取り組みを始めてみませんかとお話すること。まちづくりの入口、市民活動の入口は、二つのアプローチがあると考えていて、一つは課題を解決するという入口でのアプローチと、自分の得意なこと、好きなことを生かしながら、その強みを生かしながらこのまちがこうあったらいいというありたい姿を描いて取り組みを始める「未来創造型」と呼んでいるが、このアプローチがあると考えている。どちらも意識しながら、両輪で回していくことが大事で、未来創造型に寄ってい

る私のやりたいこととまちのいいことを組み合わせて取り組みを始めてみませんかという声掛けを強くしている。課題解決型の取り組みの行き先は、困っている方とか受益者となる方の Well-being だけを目指すことが多いかと思うが、未来創造型をプラスすることで、活動する方も活動を受ける方も、そしてまち全体の Well-being が少しずつ高まっていくのではと考えている。人のために犠牲になるとか自分が無理をするようなことでなく自分のためにもなることであれば、まちづくりは特別な一部の人たちがやるものではなく、いろんな方が当たり前に取り組んでいただける風土を作ることができると期待しながら、皆で働きかけている。どうしても私達世代は、公的サービスの受益者というか、まちづくりは行政や誰かがやってくれると思いがちな世代だが、そうではなく社会教育委員の皆さんのように、自分達がまちの創り手で自分たちが作り出していく時代だと、市民1人1人が思って、動き出すものを生み出していければいいと思う。そのきっかけを作ることを目指して、キッカケラボという名前で行っている。

実際の取り組みについては、センター条例の第1条「持続可能なまちと豊かな市民生活の実現を目指して、多様な主体が関わり、未来創造や課題解決に寄与する市民活動の創発を促進するため、福津市未来共創センターを設置する」に思いを込めている。市民活動の創発を促進するのが大きな目的になっていくが、今ある活動に加えて、いろんな方たちが手を組み合って関わり合って、新しい取り組みや新しい価値を生み出せるといいと思っている。

そのためにキッカケラボでは多様な主体が関わり合うための場と機会を作っている。場は拠点として誰もが集えるプラットフォームを運営し、多様な主体、いろんな方が繋がる機会を作っている。今までは福津市に住んでいる方を中心に市民活動が進んでいたが、それ以外にも、福津市外で福津が好きの方とか、福津出身で関わりたい方。市外の方も活躍できるようにするための入口になる。次に、組織の方では何か課題があり解決するために動く任意団体の方を始め、非営利、営利に関わらず法人の方、事業者の方、市外の教育機関の方などいろんな組織の方も足を運んでいただける誰もが集えるプラットフォームを運営している。一つ条件があるとすれば、未来に向かって自分が動きたいという思いを持っていること。場としてはセンターに自由に使えるミーティングスペースや登録団体限定の活動スペース、そしてつなぎ役であるコネクターへの相談窓口がある。9月末時点で74の団体が登録している。福祉・暮らし・文化・教育に分けて登録していて毎年更新する。活動の状況などを伺いながら、皆さんの活動に役立つような取り組みができるセンターになれるよう改善している。

もう一つオンライン上の取り組みとして、ふくつプレイヤーズがある。福津のことまちの創り手のことを知るといふ公式LINEでの情報共有を中心に、テーマ型の交流会やプレイヤー限定のプロジェクトなども少しずつ動かし始めている。今は一社福津いいざいさんとコラボレーションして、市民の方が考えるお土産作りというのをプレイヤーズ限定で動かしている。

次に機会を進めている上で大切にしていることは、まちづくりは1人でとか、一つの組織で単独でもできるし、他の方と手を組んで共に歩むこともできると思うが、キッカケラボはではともに歩む取り組みをされる方をより支援している。その方がこれから持続可能なまち作りをしていく上で、いろん

な方とともにやりたいことを実現しやすくするため、「共に学ぶ」機会と「共に創る」機会の2種類を作っている。「共に学ぶ」は活動の基礎となるボランティアや市民活動のことを学ぶ講座や初めての人がまちづくり1歩目を踏み出すために役立つ「ふくつたいけんプログラム」や「地域デビュー講座」などを実施している。

特徴的な学びの場としては、誰かとともに歩み一緒に進めていくには、多様な考え方を受け入れることやそれに合わせて自分の考えを変えることも時には必要になるが、「対話をする」という考え方や行動の仕方、方向性が一致するのではないかということで、対話への理解や共感する人の輪や対話の場づくりを実践できる方を増やすことを目的に、対話そのものを実践に取り組み場づくりファシリテーター実践塾「BA-School」を令和4年度から実施している。

大きな流れは三つに分かれている。一番左の、まずチームを作って市役所の職員から現状などをインプットしながらSDGsを体験し、参加者のやりたいこととまちに良いことを組み合わせながら、テーマを考えてもらい、プロジェクトを具体化するという一歩目。そのプロジェクトを実施するという二つめ。最後に実施後に皆さんでシェアをする発表会・交流会、という3段階で講座を進めている。全体を通して対話やファシリテートを学び、人が集まりたくなるような良い場は何かを考えるワークショップやSDGs de 地方創生というカードゲームを通してSDGsを体感してもらおう。最後は参加者の実践の取り組みの発表を受けて感想を共有するワークショップを行っている。参加者は30から40歳代が中心で、子育て中の方は会場のそばに準備した託児を利用して受講されていた。忙しいから関わらないのではないかと思っていた世代がたくさん6ヶ月にわたる講座を受けた。参加者は、リーダーシップのある方ばかりではなく、自信のない方も多いが、チームで動く中で自信をつけられて、市民活動を続けたいとグループを作って活動を始めた方も多い。1期生が23名、2期生が20名、3期生15名で取り組みを進めていて、今年も12月1日に交流会するので、もし良ければ参加していただきたい。

次に、共に創るための機会は、コネクターへの相談という機会では、専門スタッフを配置して相談者の思いを丁寧に聞き取り、必要な情報を伝えて繋いでいる。繋がる相手ははっきりわかる場合は一対一で繋ぐこともあるが、迷う場合は、テーマ型の交流会を案内している。

テーマ型の交流会はいくつか種類がある。まず、SDGsの考えをまちに入れることで始まったセンターなので、SDGsのきっかけづくりのため、SDGsをより身近に感じ、暮らしで生かすための講座もしている。エシカル消費や廃油から電気へ、というテーマで開催もした。次は、円卓会議。市内の事業者から竹について興味があり取り組みたい、広げたいという相談があった際、どの団体に繋いだらいいかわからなかった。放置竹林問題は稼げそうにない課題だから全て市役所がやればよいではなく、民間の力で楽しみながら何かできないかという視点から、相談者である事業者、山の所有者、市役所の山を管理する部署の職員、既に山を守る活動をしている方などいろんな人に集ってもらい、どうやったら民間で楽しみながら放置竹林問題解決できるか話をしたことがある。

最後は、私達の大きなテーマであるWell-beingでの参加型の交流会。この

場と機会を組み合わせながら、いろんな方が混ざり合う機会、市民活動の創発が生まれやすい環境を作りたいと思い、市民の方とNPO法人、行政3者で力を合わせながら、キッカケラボを運営している。

●会長

今の話の中に社会教育の繋がりと同じ部分と逆に、見たことがないような取り組みがあった。例えば、放置竹林の円卓会議とかでも、子供の学びに繋がったらどういう変化が起きるか、とか、何か新しい何かが出てくるかなど、そういうところは教育とも繋ぐことができる部分もあると感じた。

そういう話も含めて、今からキッカケラボのスタッフと郷育推進委員で話しをしてほしい。

○ワークショップ

●会長

皆さん、それぞれ盛り上がって話をしていて嬉しく思う。今日は、何かをしないといけないというものでなく、皆さんでいろいろ話すことを目的とした機会と思ってこの時間を設けた。模造紙に書かれたものは、今後の会議などで何かできないかと話が広がる内容もあるかもしれないので参考に預らせていただきたい。

最後に、今日の感想を皆さんに一言ずつお願いする。

●委員

前回参加できなかったのがキッカケラボの話を知り初めて聞いた。そこにあるのは分かっていたが、具体的に文化協会として何か作ってあげれば良いなと思った。文化協会もたくさんいろんなサークルがあるので、いろんな展開ができそうな気がした。

●委員

今日初めて話して、いろいろなツールがあると感じた。そういうのがうまく具合に交わってあげれば良いまちができると思う。

●委員

キッカケラボのことは設立時から知っていたが、登録団体の表を見てすごく大きくなっていると思った。そして私達もここに足を運んで利用ができたらしいと思う。

●委員

郷づくりとかでキッカケラボとは今までも繋がりがあったが、こんなに綺麗に整理して説明をしてもらおうと、よりわかりやすかったし、普段あんまり話したことがなかったので話が聞けて楽しかった。

●委員

今小学校のコーディネーターの方で繋がらせてもらっている。今度も食品ロスのプロジェクトとか、キャリア教育でも去年から繋がりを持たせていただいていた詳しく中身を知りたいと思っていたのでちょうど良かった。

●委員

今日は改めてキッカケラボの内容をわかりやすく説明していただいてすごく良かった。何かしたいけど何をしていいかわからない人のところにもっとキッカケラボが届くといいと思いながら聞いていた。とっても楽しかった。

●ラボ

福津市にはお金がないという話を聞くことがありその通りだが、今までこのまちをつくってくれた人の力と新しく入ってきた人の力も含め、たくさん人の力があるまちだと感じた。このたくさんの方の力でみんなと混ざり合いながらこのまちをより豊かにできそうだと感じてワクワクさせてもらえた。

●ラボ

話が止まらないほど、とても楽しい時間だった。社会教育委員としての立場の個人が持っている資源と私達が繋がらせていただいている資源を掛け合わせができることで、何かすごい夢が描けるようないろんな話のできたので収穫になった。

●ラボ

確かに福津市はお金がないらしいと聞くが、市民の方の力とか繋がりの可能性みたいなものを、そこから生まれる何か福津市には特にたくさんあると気づき、改めて期待が生まれる時間になった。

●副会長

私は今日、5時半過ぎまで柳川市の中学校の校内研修会の講師をしていた。その研究主題が「主体的に自分の考えを伝え合う生徒の育成」だった。大事なのは安心していろんなことをざっくばらんに言える関係性だと話した。先ほどのワークショップがまさにそうで、主体的に自分の考えを伝え合っていた。お互いの考えを伝え合いたくなる場を作るのは大事。まさに郷育推進委員の立場と、キッカケラボという組織の立場でお互いに何をしているのかそれを知りたくなる場を今日作ったので、今日の話し合いは、何かを決めるのではなくまずお互いを知ることで、ここが繋がるそこは繋がるっていうアイデアが出る。私も会長もそれぞれの組織の中身はよく知っているのだから「効率的にやるならそれぞれの活動内容はこうで、共通点はここで違うのはここで、どうするか」と話を持っていくこともできなくはないが、それをやると皆さん楽しくない。なぜなら、言われたからやる、になるから。さっき皆さん自身が気づいたことはやりたいこと。だから皆さんも意見を出し合い、いろんなツールがあっような提案や展開ができそうだとか話すこと自体が楽しかったという、この場が良かったというのも大事。そういうことを踏まえて、気づいたことが結構あると思う。キッカケラボは行政の一部で社会教育委員はどちらかというと独立した組織で行政に対して意見を申し上

げたりする立場であり、立ち位置や組織が違う。行政がやっていくことと、団体間を繋ぐ立ち位置でキッカケラボがやろうとしていることで共通点も実はたくさんある。むしろ私から見ると、いきなり集団と集団を繋ぐより、まずやりたい個人を発掘して繋いで、ともに歩む団体ができ、やがて活動団体となっていく、立ち上げから軌道に乗るまでキッカケラボが得意なところで、ラボと伴走しながら団体となったときに団体間をどう繋いでいくか、団体同士が福津市の中でどういう立ち位置だったら動きやすいかというのを生涯学習推進計画に落とし込んでいくのは郷育推進委員が得意なところ。目指すゴール像は一緒だと思うので、お互いの良いところを出し合いながら今後いい形で、どの場面でどう関わればいいのか、活動内容によっても様々なアプローチがあるので、皆さんそれぞれの立ち位置でいいものが作れるといいなと思う。今日はたくさんの気づきを持ち帰っていただいて、次回以降の具体的な動きを考える際にご意見いただければと思う。

#### ●会長

今年度はあと3回ある。今年1年かけてどういうふうに今後連携や繋がりを持っていくといいかという一つの提案をしたいと思う。決定とかではなく何か一つの提案を、お互いを知ったからこそできそうなことを、次回以降も話し合いながら、キッカケラボの方々にはまたお招きする際は案内する。こちらで話した提案をお伝えする形とするのか、もしくは一緒に何かを考えていくのか、改めて考えていきたいと思う。

#### 4. その他

事務局から来月の研修の再確認

10月18日は福岡ブロックの社会教育研修会がリーパスプラザ古賀にて行われる。木本会長と田上は主催側で手伝いのため先に向かう。

10月31日には、福岡県の社会教育研究大会が、テーマ「社会教育と地域活性化の掛け合わせ」で開催される。12時に別館1階の正面玄関集合予定。伊藤先生が登壇される。

#### ○次回開催日

11月18日（月）18時30分開始